

● 趣旨説明 ●

開会の挨拶

山岡道男

(早稲田大学国際学術院教授／早稲田大学ニュージーランド研究所長)

*総合司会：

それでは、本日の報告会をいたします早稲田大学ニュージーランド研究所所長から、本日の趣旨説明をさせていただきます。

ただいま、総合司会の原田壽子先生の方からご紹介をいただきました山岡と申します。私は今回の国際シンポジウムの主催の1つでありますニュージーランド研究所の所長でありますし、早稲田大学ではアジア太平洋研究科の教員も務めております。また、日本ニュージーランド学会の会長でもあり、本日総合司会をお願いしております原田先生は早稲田大学ニュージーランド研究所のメンバーであると同時に、日本ニュージーランド学会にも所属しておられまして、私の前の会長でありました。

さて本日は、理事の深澤良彰教授、それから駐日ニュージーランド大使のイアン・ケネディ閣下を初めとして、ご報告をしていただく先生方、コメンテーターの方々、多くのここにご来場いただきました先生方、学生諸君、また一般の方々に対して、お忙しい中を本国際シンポジウムにご参加いただいたことに対して、まず御礼を申し上げたいと思います。

また、今回の研究報告会をご支援ご協力をいただきました早稲田大学総合研究機構の機構長であられます森原隆教授、それから同じく総合研究機構の事務局の方々にも、心より御礼を申し上げます。

今回のシンポジウムは、オセアニア地域に属するニュージーランドとオーストラリア、この2つの地域をそれぞれ研究いたしますニュージーランド研究所とオーストラリア研究所の共同主催となっております。オーストラリア研究所からは、所長であり、また日本語教育研究科の教授であられます宮崎里司先生が、第2報告のコメンテーターとしてご参加していただいております。宮崎先生は午後の今の時間には講義がありますので、後ほどの参加となります。また、第3報告のコメンテーターであられます樋口清秀教授は、ニュージーランド研究所のメンバーであると同時に、ヒューマンリソース研究所の所長でもあります。所属は国際教養学部ということになっておりますが、この国際教養学部、それから宮崎先生の日本語教育研究科と私の所属するアジア太平洋研究科は、一昨年統合され国際学術院となり、正式にはその所属となっております。お配りした登壇者プロフィールでは、3人とも国際学術院所属というふうになっています。

そこで主催者として、この場をお借りして、簡単に今回のシンポジウムに関する趣旨説明と、報告者・コメンテーターの先生方のご紹介をさせていただきますと思います。

今回のテーマは、「アジア太平洋地域の過去・現在・未来：ニュージーランドと日本」と、ニュージーランドが中心となっておりますが、この国際シンポジウムのパンフレットに書かれておりますように、両国は本年、大きな地震に見舞われ、復興過程にあるという共通点があります。これまでは、安全と安心と

いうのを誇っておりましたニュージーランドと日本は、大地震によりその社会状況は一変し、試練の時を迎えておることは皆さんご存知のとおりでございます。

本シンポジウムでは、基調講演のケネディ大使もこのことに触れられますし、第1報告者であられる、京都にあります仏教大学教授の植村善博先生からも、日本ではあまり知られていない、ニュージーランドの被害状況に関してお話を伺うことになっております。植村先生は関西方面をベースとするニュージーランド学会の事務局長を務められております。コメンテーターの遠藤哲也先生は、我々の関東をベースとする日本ニュージーランド学会の副会長であられると同時に、現在検討が進んでおります東京電力福島第一原子力発電所の事故を調査いたします福島原発事故独立検証委員会のメンバーでもあります。

第2報告は早稲田大学におけるニュージーランド研究の状況に関して、慶応義塾大学名誉教授の小松隆二先生からお話を伺うことになっております。小松先生は日本ニュージーランド学会の初代会長であり、日本でニュージーランド研究を推し進めてこられました第一人者の先生であります。一般的にはライバルといわれております慶応義塾大学の先生から、恐らくは早稲田大学の先生方にも、これまであまり知られていない貴重なお話を伺えることになっております。

最後の第3報告は、ニュージーランドのオークランド市にありますオークランド大学商学部の学科長(Head of Department)であられるヒュー・ウィットカー教授から、ニュージーランドとアジアの通商関係について、日本を含めてお話をいただきます。恐らく今回話題となっておりますTPPのお話も出てくると思います。

オークランド大学と早稲田大学とは学術交流協定を結んでおりまして、ウィットカー先生は同大学の付置研究所であるニュージーランド・アジア研究所の所長でもあります。私も2002年の時に1年間ここで在外研究をさせていただきました。また、私のゼミ旅行でニュージーランドを訪問する際には、同研究所から招聘状をいただいて、ビザの必要な学生にはビザの取得をしてあげております。

このように、今回の国際シンポジウムでは、ニュージーランドと日本に焦点を当てまして、過去・現在をとらえると同時に、将来への展望を導き出そうとするものであります。

最後に、2月22日のクライストチャーチの震災から約9カ月、また3月11日の東日本大震災からは既に8カ月が過ぎましたが、今回の両国の震災で亡くなられた方々やそれから行方不明になった方々に対して、心から哀悼の意を表し、また、多くの物的被害や人的被害を受けた方々に対して、心よりお見舞い申し上げます、さらに一日も早い復興を願って、プログラムの最後に、アメージング・グレイスを大阪学院大学の古橋政子先生のリードのもとに、参加者の皆様と一緒に歌いたいと考えています。古橋先生は、関西ベースのニュージーランド学会のメンバーでもあります。

以上、簡単ではありますが、国際シンポジウムの開催趣旨と、報告者とコメンテーターの先生方のご紹介をもって私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

***総合司会：**

どうもありがとうございました。